

高知県感染症発生動向調査(週報)

2011年第43週[10月24日～10月30日]

高知県衛生研究所 高知県感染症情報センター
TEL:088-821-4961 FAX:088-825-2869
http://www.pref.kochi.lg.jp/soshiki/130120/
E-mail:kansen@ken4.pref.kochi.jp

県内情報

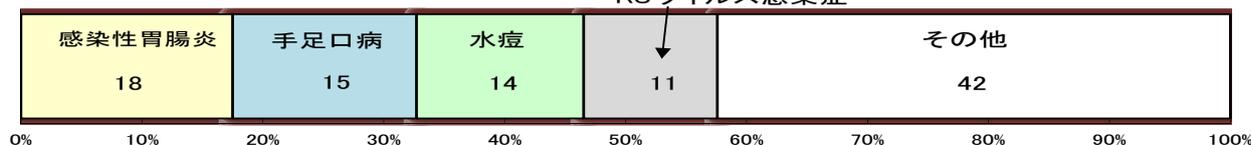
○ 患者情報総評

注意報発令疾患：マイコプラズマ肺炎

- ・ 週の半ばは朝晩の気温が下がり肌寒く感じられ、週末は曇りや雨となった。
- ・ **手足口病(幡多：注意報→注意報, 高幡：警報→注意報)**は幡多と中央東でやや増加したが、その他の地域では減少し、総数はさらに減少した。しかし、今年に入り2回感染している例も報告されているので注意が必要である。
- ・ **感染性胃腸炎**は引き続き低いレベルで推移しているが、例年11月に入ると報告数が急増しており今後の動向に注意が必要である。
- ・ **水痘(中央東：注意報)**は前週中央西で大幅に増加し警報値を超したが、今週は激減した。しかし、中央東と幡多で増加し、中央東では注意報値を超した。
- ・ **流行性耳下腺炎(高知市：注意報)**は前週の2倍以上に増加し注意報値を超した。総数は減少したが、増加傾向がみられており今後も注意が必要である。

上位疾患構成図

RSウイルス感染症



地域別感染症注意報・警報発生状況

第43報 (2011年10月24日～2011年10月30日)



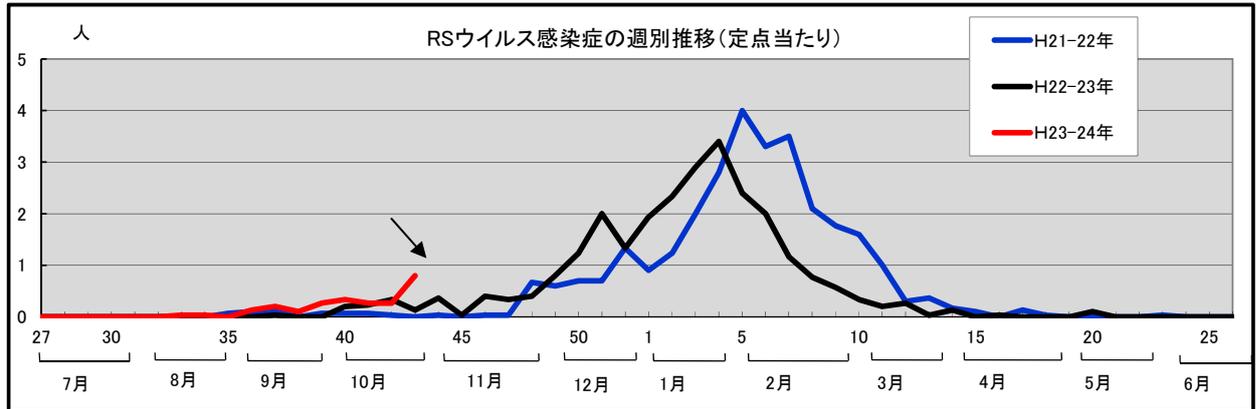
マイコプラズマ肺炎：今週 0.86 (注意報値：0.50 警報値：2.00)

報告数は1例増加し、引き続き幡多で警報値、高知市で注意報値を超している。今週は *Mycoplasma pneumoniae* が4件検出されたが、うち3例は中央東、1例は高幡から搬入されており、県全体的に流行していると思われるので、引き続き注意が必要である。

※マイコプラズマ肺炎は基幹定点医療機関の届出対象疾患であり、高知市(5医療機関)・幡多・中央東の計7医療機関からのみの報告である。

RSウイルス感染症：今週 0.80 （注意報値、警報値：基準値なし）

高知市のみからの報告であったが、前週の3倍に増加し、例年と比較して早い立ち上がりとなった。例年、11月末頃から報告数が増加し、1月末から2月にかけて流行のピークとなっており、今後は推移に注意が必要である。



百日咳：今週 0.13 （注意報値：0.60 警報値：1.00）

今年に入り報告数は0～2例（第35週を除く）であったが、今週は高知市と高幡から4例報告があり、高幡では警報値を超した。搬入された検体から *Bordetella pertussis* が1例検出されており、今後の推移が注目される。

検査情報

受付週	臨床診断名	患者	地域	ウイルス、細菌の検出状況
43	百日咳	7歳 男	高幡	<i>Bordetella pertussis</i>
43	マイコプラズマ感染症	8歳 女	中央東	<i>Mycoplasma pneumoniae</i>
43	マイコプラズマ感染症	6歳 男	中央東	<i>Mycoplasma pneumoniae</i>
43	マイコプラズマ感染症	11歳 男	中央東	<i>Mycoplasma pneumoniae</i>
43	マイコプラズマ肺炎	5歳 男	高幡	<i>Mycoplasma pneumoniae</i>
43	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	5歳 男	中央東	<i>Streptococcus pyogenes</i> T12

前週以前に搬入され検出された病原体

受付週	臨床診断名	患者	地域	ウイルス、細菌の検出状況
29	上気道炎 ウイルス性発疹他	1歳 男	高知市	Enterovirus NT
32	手足口病	1歳 男	高幡	Coxsackievirus A6
36	手足口病	1歳 女	高知市	Coxsackievirus A6
36	無菌性髄膜炎	4歳 男	高知市	Echovirus 6
36	無菌性髄膜炎	4歳 男	高知市	Rhinovirus
36	流行性角結膜炎	2歳 女	高幡	Saffoldvirus-NT
37	手足口病	2歳 女	高幡	Adenovirus 1
37	手足口病	4歳 男	高幡	Coxsackievirus A10
37	手足口病	1歳 男	高知市	Coxsackievirus A16
37	手足口病	2歳 女	高幡	Coxsackievirus A16
37	手足口病	4歳 女	高幡	Coxsackievirus A16
37	手足口病	1歳 女	高幡	Coxsackievirus A6
37	手足口病	2歳 女	高幡	Parechovirus NT
37	手足口病	1歳 男	高知市	Rhinovirus
39	手足口病	5歳 男	高知市	Coxsackievirus A16
39	手足口病	2歳 女	高幡	Coxsackievirus A16
39	気管支炎	3歳 男	中央東	Rhinovirus
40	感染性胃腸炎	6ヵ月 女	高知市	Parechovirus NT
40	急性肺炎	5歳 男	中央東	Rhinovirus
42	RSウイルス感染症疑い	2歳 女	中央東	Rhinovirus

○ **全数報告の感染症情報**

- 2類感染症：結核 5例（5～9歳女，80代男）《幡多》（20代女，60，80代男）《中央東》（今年161例）
- 3類感染症：腸管出血性大腸菌感染症 1例（30代女）《幡多》（今年3例）
- 4類感染症：レプトスピラ症 3例（20代男：2例，50代男）《幡多》（今年4例）
- 日本紅斑熱 1例（80代女）《安芸》（今年7例）

○ 定点からの地域ホット情報

幡多：

《渭南病院小児科》：マイコプラズマ感染症 1例（39歳女）

高幡

《もりはた小児科》：マイコプラズマ肺炎 4例 百日咳 1例（7歳男：42週）

中央西

《くぼたこどもクリニック》：感染性胃腸炎の1例（1歳男）は香南市

《日高クリニック》：マイコプラズマ気管支炎 1例（3歳男）

高知市：

《けら小児科・アレルギー科》：帯状疱疹 2例（8, 11歳男） マイコプラズマ肺炎 2例（6, 10歳男）
カンピロバクター腸炎 1例（22歳男）
アデノウイルス扁桃炎 3例（1, 3歳女, 2歳男）

中央東：

《あけぼの小児クリニック》：マイコプラズマ肺炎 3例（6, 8, 11歳）

全国情報第41週（10/10～10/16）（<http://idsc.nih.go.jp/index-j.html>）

2類感染症：結核312例

3類感染症：細菌性赤痢5例、腸管出血性大腸菌感染症53例（有症者31例、うちHUS 1例）、腸チフス1例

4類感染症：A型肝炎1例、オウム病1例、つつが虫病1例、デング熱2例、日本紅斑熱4例、日本脳炎1例、マラリア8例、ライム病1例、レジオネラ症9例、レプトスピラ症1例

5類感染症：アメーバ赤痢6例、ウイルス性肝炎（B型）2例、急性脳炎2例、クロイツフェルト・ヤコブ病2例、劇症型溶血性レンサ球菌感染症1例、後天性免疫不全症候群12例（AIDS 1例、無症候10例、その他1例）、梅毒9例、破傷風3例、バンコマイシン耐性腸球菌感染症2例、風しん1例、麻しん5例

報告遅れ：細菌性赤痢3例、日本紅斑熱2例、急性脳炎2例、劇症型溶血性レンサ球菌感染症3例

◆マイコプラズマ肺炎

マイコプラズマ肺炎は、肺炎マイコプラズマ (*Mycoplasma pneumoniae*) を病原体とする呼吸器感染症である。感染経路としては、飛沫感染による経気道感染や、接触感染によって伝播すると言われている。感染には濃厚接触が必要と考えられており、保育施設、幼稚園、学校などの閉鎖施設内や家庭などでの感染伝播はみられるが、短時間の曝露による感染拡大の可能性はそれほど高くはない。潜伏期間は2～3週間とインフルエンザやRSウイルス感染症等の他の小児を中心に大きく流行する呼吸器疾患と比べて長く、初発症状は発熱、全身倦怠、頭痛などである。本症の特徴的な症状である咳は、初発症状発現後3～5日より始まることが多く、乾性の咳が経過に従って徐々に増強し、解熱後も長期にわたって（3～4週間）持続する。治療は抗菌薬投与による原因療法が基本であるが、*Mycoplasma pneumoniae* は細胞壁を持たないために、β-ラクタム系抗菌薬であるペニシリン系やセファロsporin系の抗生物質には感受性はない。蛋白合成阻害薬であるマクロライド系（エリスロマイシン、クラリスロマイシン等）が第1選択薬とされてきたが、以前よりマクロライド系抗菌薬に耐性を有する耐性株が存在することが明らかとなっており、近年その耐性株の割合が増加しつつあるとの指摘もある。

診断には特異的IgM抗体迅速検出キットが開発され、臨床現場において活用されてきているが、幼児、学童の初回感染例では発病1週間以内では陰性を示すことが多く、また単一血清で高い抗体価であっても感染の既往を示している可能性を否定できない。最近では、PCR法やLAMP法による遺伝子検出が次第に多くの検査機関で実施されるようになってきている。

マイコプラズマ肺炎は、かつては、他の病原体によるものも含まれる「異型肺炎」として発生動向調査が実施されていたが、1999年4月の感染症法改正により、現在の病原体診断に基づく調査となった。現在、マイコプラズマ肺炎のサーベイランスは全国約500カ所の基幹定点医療機関（2次医療圏域毎に1カ所以上設定された、300人以上収容する施設を有する病院）からの報告に基づいている。

2011年のマイコプラズマ肺炎の基幹定点からの定点当たり報告数は、第25週以降は1999年の調査開始以降の同時期と比較して最も多い状態が継続している。特に第39週以降の増加傾向は顕著となっており、第41週の定点当たり報告数は1.23（報告数565）とこれまでの最高値を更新した。例年、学校等の夏季休暇期間中は減少傾向を示していたが、今年は夏季休暇期間中にも報告数の増加がみられ、夏季休暇終了後の小児の集団生活施設の再開と共に報告数の増加傾向が更に大きくなった。都道府県別では青森県（5.67）、沖縄県（4.14）、埼玉県（3.78）、愛知県（3.15）、大阪府（2.47）、東京都（2.29）、栃木県（2.14）の順となっており、25都府県で前週よりも報告数の増加が認められている。

2011年第1～41週の定点当たり累積報告数は22.68（累積報告数10,457）であり、年齢群別では0～4歳37.0%、5～9歳29.3%、10～14歳15.0%、20～39歳7.6%、60歳以上5.0%の順となっている。2007年以降は成人の報告割合がやや増加して全報告数の20%近くを占めるようになってきているが、一方で9歳以下が全報告数の60%以上を、14歳以下で80%前後を占めており、マイコプラズマ肺炎の報告の中心が小児であることには変わりはない。

2011年のマイコプラズマ肺炎の報告数は、これまででは減少傾向となっていた時期においても増加し、1999年の発生動向調査開始以来の週当たりの最多報告数を現在も更新しつつある。今後ともマイコプラズマ肺炎の報告数の推移については慎重に経過観察していくべきであると同時に、これまで治療の第一選択薬とされていたマクロライド系抗菌薬に対する耐性株に関する情報にも注意していく必要があると思われる。

定点名	医療圏 疾病名	安芸 医療圏	中央医療圏			高幡 医療圏	幡多 医療圏	計	前週	全国(42週)	高知県(43週末累計) H23/1/3~H23/10/30		
			中央東	高知市	中央西								
内科・小児科	インフルエンザ			1				1 (0.02)		433 (0.09)	12,340 (257.08)		
小児科	咽頭結膜熱			1				1 (0.03)		450 (0.14)	316 (10.53)		
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	3	1	10	3	1	2	20 (0.67)	15 (0.50)	3,433 (1.10)	1,883 (62.77)		
	感染性胃腸炎	3	7	23	3		2	38 (1.27)	47 (1.57)	9,281 (2.96)	6,688 (222.93)		
	水痘	1	14	3	4	1	7	30 (1.00)	33 (1.10)	2,956 (0.94)	1,576 (52.53)		
	手足口病	1	4	9	1	4	14	33 (1.10)	48 (1.60)	3,953 (1.26)	3,189 (106.30)		
	伝染性紅斑			1	7	2	1	9	20 (0.67)	18 (0.60)	586 (0.19)	414 (13.80)	
	突発性発疹			2	5	2	1	2	12 (0.40)	14 (0.47)	1,775 (0.57)	615 (20.50)	
	百日咳				1			3	4 (0.13)	2 (0.07)	94 (0.03)	33 (1.10)	
	ヘルパンギーナ				8	1			3	12 (0.40)	10 (0.33)	669 (0.21)	917 (30.57)
	流行性耳下腺炎			1	11	2		1	15 (0.50)	23 (0.77)	2,433 (0.78)	363 (12.10)	
	RSウイルス感染症				24				24 (0.80)	8 (0.27)	1,790 (0.57)	630 (21.00)	
眼科	急性出血性結膜炎									108 (0.16)	1 (0.33)		
	流行性角結膜炎								1 (0.33)	347 (0.51)	42 (14.00)		
基幹	細菌性髄膜炎									4 (0.01)	4 (0.57)		
	無菌性髄膜炎									31 (0.07)	22 (3.14)		
	マイコプラズマ肺炎			3			3	6 (0.86)	5 (0.71)	520 (1.13)	113 (16.14)		
	クラミジア肺炎 (オウム病は除く)			1				1 (0.14)		20 (0.04)	9 (1.29)		
計 (小児科定点当たり人数)		8 (4.00)	30 (4.29)	107 (9.34)	18 (6.00)	11 (5.50)	43 (8.00)	217 (6.99)					
前週 (小児科定点当たり人数)		13 (6.50)	29 (4.14)	73 (6.27)	40 (13.33)	24 (12.00)	45 (8.60)		224 (7.27)	28,883	29,155 (811.22)		

定点当たり

第43週

定点名	医療圏 疾病名	安芸 医療圏	中央医療圏			高幡 医療圏	幡多 医療圏	計	前週	全国(42週)
			中央東	高知市	中央西					
内科・小児科	インフルエンザ			0.06				0.02		0.09
小児科	咽頭結膜熱			0.09				0.03		0.14
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	1.50	0.14	0.91	1.00	0.50	0.40	0.67	0.50	1.10
	感染性胃腸炎	1.50	1.00	2.09	1.00		0.40	1.27	1.57	2.96
	水痘	0.50	2.00	0.27	1.33	0.50	1.40	1.00	1.10	0.94
	手足口病	0.50	0.57	0.82	0.33	2.00	2.80	1.10	1.60	1.26
	伝染性紅斑		0.14	0.64	0.67	0.50	1.80	0.67	0.60	0.19
	突発性発疹		0.29	0.45	0.67	0.50	0.40	0.40	0.47	0.57
	百日咳			0.09			1.50	0.13	0.07	0.03
	ヘルパンギーナ			0.73	0.33		0.60	0.40	0.33	0.21
	流行性耳下腺炎		0.14	1.00	0.67		0.20	0.50	0.77	0.78
	RSウイルス感染症			2.18				0.80	0.27	0.57
眼科	急性出血性結膜炎									0.16
	流行性角結膜炎								0.33	0.51
基幹	細菌性髄膜炎									0.01
	無菌性髄膜炎									0.07
	マイコプラズマ肺炎			0.60			3.00	0.86	0.71	
	クラミジア肺炎 (オウム病は除く)			0.20				0.14		0.04
計 (小児科定点当たり人数)		4.00	4.29	9.34	6.00	5.50	8.00	6.99		
前週 (小児科定点当たり人数)		6.50	4.14	6.27	13.33	12.00	8.60		7.27	

2011年週報推移(定点当たり)

